飛騨市立神岡小学校　　学校だより

かみっこ

合い言葉は
「自ら考える」

令和５年１２月２５日

「自分にはよいところがある」

校長　平澤　啓介

神岡小学校の児童会では、「あったかの葉」の活動を進めています。これは、自分が言われて嬉しかった言葉や、自分がされて嬉しかった行動を葉っぱの形をしたカードに書き、廊下に掲示してある「あったかの木」に貼ったり、給食の放送で紹介したりする活動です。

いくつかの学級では「学級版あったかの葉」に取り組んでいて、学級の仲間のよいところを付箋に書いて掲示してあります。子どもたちは、その「あったかの葉」に書かれた言葉を読んで、自分自身のよさを確かめたり、仲間への感謝の気持ちを新たにしたりしています。感想を聞くと、「自分のよいところを見付けるのは難しいけど、よいところを書いてもらうと、自分が気付いてなかったよさが分かるし、うれしい気持ちになります。」と話してくれました。

子どもたちにとって、仲間からよさを認めてもらうことは、私たちが思っている以上にうれしいことだと分かりました。また、自分のよさには意外と気付いていない子が多いことも分かりました。こうした子どもの思いに触れて、よさを認めることや褒めることの大切さを改めて感じています。

こうした「自分にはよいところがある」という自分を好意的に受け止める感情のことを自己肯定感といいます。国の調査では、自己肯定感が高い人ほど、自分のことも相手のことも大切にできる傾向が高いそうです。また、物事に粘り強く挑戦したり、自分の考えをはっきり主張したりすることもよくできるそうです。反対に自己肯定感が低いと、自分に自信がもてなくなったり、少しの失敗でくじけてしまったりする傾向が高くなるそうです。

学校では、子どもたちがたくましく生きていくために、自己肯定感を高めることが必要だと考えています。一人一人が「自分にはよいところがある。」と自分に自信をもてるようになってほしいと願っています。その実現に向けて、教職員はもちろん、子ども同士でも互いのよさを積極的に認め合える関係づくりを進めているところです。家庭や地域でも、それぞれの関わりの中で、子どもたちのよさを認めていただけるとありがたいです。

令和５年もあとわずかとなりました。みなさま、よいお年をお迎えください。